

## 2. 学内の諸ボランティア活動の連絡、協力および支援に関する事業

### (1) 学生サポートメンバー(サポメン!)との連携

学生サポートメンバー(通称:サポメン!)は、聖学院大学におけるボランティアの活性化を目的として組織され、現在はサポメン2期生~4期生を中心に、自分たちにできる活動を検討している。本年度は地域から依頼のあったイベントへ参加した他、「ボラTea」「オープンキャンパスへのブース出展」「全国学生ボランティアと支援者が集う研究集会への参加」等の活動に取り組んだ。また、センター主催で開催された「学内ボランティア団体への助成金審査会」にて、サポメンが交流会の企画・進行を担当し、地域と学内団体との交流の場づくりがかなった。

#### i) ボラTea

学内・外で聖学院生が組織している団体の活動を紹介する場を設けることを目的に、4月、7月、1月と3回実施した。ボランティア活動未経験者へのアプローチを意識しつつ、既に活動中の学生同士の交流も出来るような内容で実施した。

##### ①「新歓ボラTea」

内 容：学内・外で聖学院生が活動しているボランティア団体の活動紹介と勧誘

実 施 日：2015年4月10日(金) 18:00~20:00

参加者数：43名(うち新入生24名)

参加団体：・学内団体 聖学院大学ボランティアアソシエーション(グレイス)

聖学院大学復興支援ボランティアチーム【SAVE】

東南アジアボランティア部 Rung、ほたる祭り実行委員会、Heart&Smile

・学外団体 紙ひこうき、100k 徒歩の旅実行委員会、わこう・あそびの森実行委員会



##### ②「七夕ボラTea」

内 容：夏期休暇期間中にできるボランティア活動の紹介

学内・外で聖学院生が活動しているボランティア団体の活動紹介と勧誘

実 施 日：2015年7月3日(金) 18:00~20:00

参加者数：60名

参加団体：・学内団体 聖学院大学復興支援ボランティアチーム【SAVE】、

東南アジアボランティア部 Rung、ほたる祭り実行委員会、

ボラフェス2015、ひよこProject、Heart&Smile、RIUM、

Four Leaved Clover、

・学外団体 わこう・あそびの森実行委員会、紙ひこうき、



### ③「冬のボラ Tea」

内 容：春期休暇期間中にできるボランティア活動の紹介

学内・外で聖学院生が活動しているボランティア団体の活動紹介、交流

実施日：2016年1月15日（金）17：00～20：00

参加者数：40名

参加団体：ボランティアアソシエーション・グレイス、復興支援ボランティアチーム【SAVE】  
東南アジアボランティア部 Rung、紙ひこうき、Heart&Smile、ムーミンの会、STEP  
Four Leaved Clover、聖学院大学ボランティア活動支援センター

#### ii) ボランティア活動助成公開審査会後の交流会の運営

公開審査会の結果待ちの間、ドネーションに協力して頂いた地域の皆さんと審査会に出場した学生団体との交流会を実施した。学生達による活動紹介の他、地域の方からのボランティア募集などのPRタイム、発表を頑張った学生達へ障がい者施設の理事長より、差し入れとして施設で育てた野菜が提供されるなど、大盛況であった。

実施日：2015年6月27日（土）

参加者数：約70名



#### iii) オープンキャンパスへの参加

※78 ページに掲載

#### iv) 新入生を対象とした宣伝活動

新入生に対し、大学にボランティア活動支援センターがあることと、ボランティア活動の魅力を伝えるべく、入学直後のガイダンス等で、宣伝活動を行った。サポメン合宿で撮影した映像をもとに、今年も「サポメンジャー」が登場し、ボランティアの魅力を語り、さらに翌週に開催予定のボラ Tea の案内を行った。

##### ・活動内容

— 「学生生活ガイダンス」での動画を使ったセンター紹介

日程：2015年4月4日（土）



#### v) サポメンミーティング、強化合宿実施日程と内容

- ・ミーティング実施日  
毎週1回昼休み他、企画に応じて随時ミーティングを実施した。
- ・強化合宿実施日程と内容  
日程：2016年3月8日(火)～9日(水)  
場所：埼玉県県民活動総合センター(伊奈町)  
内容：
  - ・一年間の振り返り
  - ・新入生ガイダンスで流すVTRの撮影
  - ・来年度の活動目標の共有と活動計画の作成



#### vi) 行政、市民活動団体との連携

今年度行政や市民活動団体からお声掛けいただき下記の連携活動を行った。

- ・上尾市広報広聴課主催「あげおえがおミーティング」への参加  
日程：2015年10月8日(木)、15日(木)、22日(木)、11月12日(木)  
場所：聖学院大学  
内容：上尾市のキャッチコピーの検討など
- ・上尾市消費生活展実行委員会主催「第33回上尾消費生活展」への参加  
日程：2015年11月21日(土)、22日(日)  
場所：上尾市コミュニティセンター  
内容：サポメンジャーでイベントを盛り上げる

#### vii) 他大学や地域での活動発表

今年度他大学や地域からお声掛けいただき下記とおり活動発表を行った。

- ・浦和大学「ボランティア活動」ゲストスピーカー  
日程：2015年6月12日(金)  
場所：浦和大学(さいたま市緑区)  
内容：聖学院大学学生サポートメンバー(サポメン!)の紹介
- ・上尾市民活動支援センター主催「あげお駅前市民塾」ゲスト  
日程：2015年11月14日(土)  
場所：上尾市民活動支援センター  
内容：学生のボランティア活動事情について

## viii)第4回学生ボランティアと支援者が集う全国研究交流集会への参加

日程：2016年3月5日(土)

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター(代々木)

主催：独立行政法人 国立青少年教育振興機構

後援：文部科学省、独立行政法人日本学生支援機構

内容：それぞれ関心のある学生分科会に参加し、全国のボランティアに取り組む学生との交流を図ったり情報交換を行った。さらに、アクションマーケットに出展し、他大学の学生、学校関係者、NPO・市民活動団体に向けて、センターやサポメンの取り組みを紹介した。

## ix)成果と課題

- 今年度はサポメン!として地域に呼んでいただいたり、市のタウンミーティングに参加するなど、地域での認知度が上がり、活動が多岐に広がる1年となった。全6学科の学生がそろったこともあり、サポメン合宿では様々な活動アイデアが出た。関心もそれぞれのメンバーによって、今後連携の幅がさらに広がっていくことが期待できる。
- サポメンのメイン企画となるボラTeaでは、今年度新たに「七タボラTea」「冬のボラTea」を実施するなど、ボランティアビギナーへのきっかけづくりの場を多く提供することができた。しかし、春から遠ざかるにつれて参加者が少なく、実施内容と方法について再検討が必要となった。これ以上人は集まらないのか、もしくは方法に問題があるのか、サポメンとも慎重に協議しながら進めていきたい。

## (2)授業等への協力

聖学院大学では、ボランティアをテーマにした授業が複数実施されている。教員より依頼を受けて、下記の授業にてボランティア活動支援センターの紹介やコーディネーターの職能などについて話をした。

日	授業名	対象学生	担当教員	講義内容	
5月13日(水)	人間福祉総論	人間福祉学科 1年生	古谷野亘教授	センターの紹介と身近なボランティアについて	
5月22日(金)	国際ボランティア入門A	欧米文化学科	金沢はるえ講師	センターの紹介と身近なボランティアについて	
10月16日(金)	国際ボランティア入門B				
12月8日(火)	ボランティア概論	コミュニティ政策学科他	川田虎男講師	ボランティアコーディネーターの役割	
	ボランティア論B	人間福祉学科他			
12月10日(木)	ボランティア論	こども心理学科	渡辺正人教授	ボランティア活動のための理論と要点 (スピリチュアリティの視点)	
12月17日(木)			助川征雄特任教授		ボランティア活動の方法
2016年 1月7日(木)					ボランティアセンターの機能と実際

1月21日(木)				ボランティアの実際 (スピリチュアリ ティ領域)
1月26日(火)	社会福祉 援助技術演習	社会福祉士を 目指す2年生	田村綾子准教授 野口祐子特任教授	・ボランティア活動 をするにあたって ・春休みにできるボ ランティア紹介

### (3) ボランティア活動助成事業の実施

#### i) 実施概要

これまで以上に活発にボランティア活動に取り組む学生が一人でも増えること、助成金申請を通して、自分たちの「伝える力=プレゼン力や事業計画づくり」を磨くとともに、地域の方々や先輩・教職員等多くの人が応援していることを実感すること、さらに、地域の方々に、学生の活動を知っていただくと共に彼らが取り組む「地域の課題」について知っていただくことを目的として本年度、本事業を立ち上げ、実施した。実施にあたっては本学同窓会との共催が実現し、学生たちへの助成金30万円の支援をいただいた。

また、公開審査会の際には来場者が任意で学生を直接応援できるシステムである「ドネーションパーティ」を導入し、学生と地域の方々が直につながるきっかけづくりに取り組んだ。

#### ii) 実施内容

##### ① 実施スケジュール

日にち	実施内容
2015年 6月1日(月)・ 3日(水)	説明会兼研修会 応募を予定している学生グループを対象に応募概要の説明とプレゼンテーション講習を行った。
6月27日(土)	公開審査会&ドネーションパーティ 第1次審査では申請団体のプレゼンテーションと書類をもとに、審査委員、学生審査委員(各申請団体)が審査、ポイント数によって助成金の交付、未交付を決定。さらに2次審査では交付団体への助成金額を審査委員で話し合い、発表を行った。 また、直接学生を応援できるドネーションパーティを導入し、来場者と申請団体の学生たちとの交流会も実施した。
2016年 1月15日(金)	活動報告会 助成金交付団体による活動報告会を実施。審査委員をはじめドネーションパーティに参加した地域の方々にも来場いただいた。審査委員には各活動について講評をいただき、後日学生たちへフィードバックした。

##### ② 審査委員

NO	選出枠	肩書	氏名(敬称略)
1	大学	学長	清水正之
2	大学	ボランティア活動支援センター所長	阿部洋治
3	大学同窓会	会長	坂村哲也
4	大学同窓会	副会長	山田三恵子
5	ボランティア応援卒業生	社会福祉法人荒川区社会福祉協議会	山口雄大



6	地域の方	上尾市ボランティア連絡会会長	福島京子
7	専門家 (NPO 関係)	認定NPO 法人VIZ 木崎玉常務理事	西川正
8	専門家 (ボランティア関係)	社会福祉法人上尾市社会福祉協議会 上尾市ボランティアセンター	山辺素史

③ 申請内容と助成額

NO	団体名	事業名	申請額	獲得ポイント	2次審査決定額	3次審査決定額	ドネーション決定額	匿名寄付配分	合計額
1	聖学院大学復興支援ボランティアチームSAVE	運営費助成のためなし	30,000円	20	30,000円		10,000円		40,000円
2	聖学院大学アカペラ部てくてく	楽器に頼らぬ歌声の力	50,000円	1	0円		8,000円	8,000円	16,000円
3	ひよこproject	みんなでまこう！笑顔のたね！	50,000円	7		35,000円	11,000円		46,000円
4	Heart & Smile	助け合う心とつながる勇気	50,000円	6		29,000円	8,000円		37,000円
5	手話同好会	手話歌で笑顔を広げよう	50,000円	2	0円		6,000円	8,000円	14,000円
6	Four-Leafed Clover	Table For Two	50,000円	13		48,000円	14,000円		62,000円
7	金谷ゼミ	アッピー応援隊	40,000円	2	0円		10,000円	8,000円	18,000円
8	RIUM	RIUM	50,000円	10		48,000円	16,000円		64,000円
9	坂本ゼミ	釜石夏季仮設住宅合宿ボランティア	50,000円	4		30,000円	11,000円		41,000円
10	釜石漁業ボランティア	漁業ボランティア	50,000円	4		30,000円	3,000円		33,000円
11	STEP	若い力で東北を笑顔に	50,000円	17	50,000円		5,000円		55,000円
	合計	合計	520,000円	86	80,000円	220,000円	102,000円	24,000円	426,000円

iii) 助成金を受けた主な団体の活動実績

① 復興支援ボランティアチーム【SAVE】

センターと共催で年3回の復興支援ボランティアスタディツアーを実施。購入したカメラで活動の記録を残し、活動の報告書も作成した。報告書は発表のたびに、配布・回覧し多くの人に釜石の今や活動について理解してもらえるようになった。

助成額：30,000円



復興釜石新聞 2015年12月12日

## ②釜石漁業ボランティア

漁業を通して釜石の今を発信したいとの思いから始まり、ヴェリタス祭（学園祭）で釜石を発信する「釜石フェスティバル」をセンターと共催で企画・実施。展示、釜石の方を招いての郷土料理と釜石ラーメンの販売、講演会、などを実施。

助成額：30,000円



読売新聞2015年11月13日  
その他埼玉新聞、テレビ埼玉、JCOMで取り上げられた。

## ③Heart&Smile

あげお産業祭、子ども夢☆未来フェスティバルに参加し、ぬり絵や折り紙コーナー等、子どもたちに楽しんでもらうとともに、多様な世代や障がいのある方とも交流できる場づくりを行った。

助成額：29,000円



## ④手話同好会

審査会としては残念な結果であったが、審査会後の交流会で、発表を見た施設から声がかかり、障がい者施設での手話歌の披露を行い、利用者との交流を行った。

助成額：0円



#### iv) 助成事業に関わった方々の声

##### ① 審査委員の声（清水正之学長）

- ボランティアを支えていくのに重要な事業だと思う。
- 地元の人の意見も的確だった。ぜひ今後も持続的・継続的な事業としてやってほしい。

##### ② 申請団体の声

- 自分たちがいろんな人に応援してもらっていることを実感し、嬉しかった。(FLC)
- 自分たちの発表で応援してくださる人がいたことに感動しました。頑張ってたよかったです。(ひよこ project)
- 純粋に活動の応援をされているようで嬉しく思う。(復興支援ボランティアチーム SAVE)

##### ③ 地域の方の声

たくさんの学生さんたちの思いに触れることができたことで、私自身の地域連携に対する考え方を広げることができました。たいへん失礼ですが、今春に初めてボランティアをお願いした時には、アルバイトを雇うようにしか考えていませんでした。今回の会に参加させていただいたことで、私たちと学生さんたちが、相互に成長できる仕組みであることを知りました。(行政職員)

#### v) 成果と課題

- 助成金という「お金」をきっかけにして、学生たちは多くの方から応援されていることを実感することができた。また、地域の方々にとっても、自分たちの身近な地域の課題に気づくとともに学生たちの活動について知る機会にもなった。
- この助成金は大学同窓会の支援なくては実施が叶わなかった。これからも継続して当事業を実施するにあたって大学同窓会との連携を強めていきたい。
- 次年度は、「継続した学生たちの活動支援とモチベーションの維持」「学生たちの伝える力のスキルアップ」「ボランティア団体以外への周知と参加」に力を入れていきたい。





#### (4)聖学院大学復興支援ボランティア交通費補助金

##### i)実施概要

オール聖学院フェローシップ（通称：ASF）の「東日本大震災救援・復興募金」の配分を受け、東日本大震災の被災地における復興支援ボランティア活動に取り組む本学の学生に対して交通費の補助を行い、その活動を支援することを通じて、被災地への貢献及びボランティア活動を通しての人材育成に資することを目的として、本補助金を創設した。

##### ① 補助の概要

- ・ 1年間に2回まで東日本大震災に関わるボランティア活動の交通費について、15,000円を上限に補助を行う。
- ・ 補助に当たっては、事前に申請を行い、センター運営委員会にて決定する。
- ・ 補助を受ける者は、「活動証明書」「領収書」「活動レポート」の提出が求められる。

##### ii)実績

年間利用件数	のべ39名	
年間補助総額	454,266円	
主な活動先	東北教区被災者支援センター・エマオ（宮城県仙台市）	20名
	三陸ひとつなぎ自然学校（岩手県釜石市）	12名
	田野畑村立若桐保育園たのはた児童館（岩手県田野畑村）	3名
	釜石市（岩手県釜石市）	4名

##### iii)成果と課題

- ・ 本補助金が創設されたことで、これまで復興支援ボランティアスタディツアーでの活動に縛られていた学生が、より自由に個人レベルで活動が展開できるようになった。長期休み期間を利用し、個別に受入れ団体と連絡を取り、多様な活動に参加するようになったことは大きな成果であった。また、そのことで「復興支援ボランティアスタディツアーは、被災地に訪れたことがない人でも最初の一步を踏みだせるプログラム」として明確化し、より発展的・継続的な活動を展開したい学生は交通費補助を利用して、個別に活動をするというすみわけが進んだ。
- ・ また、本補助を利用してゼミ単位でも被災地に足を運び、復興支援活動に関わる等、従来の活動層だけでなく、被災地に訪れる学生のすそ野を広げることができた。
- ・ ASFの「東日本大震災救援・復興基金」への募金は年々減少傾向にある。今後も継続的に本補助制度を運用していくためには、財源の確保についても今から検討していくことが求められている。
- ・ 宮城県仙台市出身の学生が入学し、高校生の時に行っていたボランティア活動のつながりから宮城県仙台市での復興支援活動が展開されることとなったが、その際交通費補助ができたことで、多くの学生が参加することができた。結果としてこれまで、岩手県釜石市に集中していた復興支援活動が、他県でも展開されることとなった。